

Ⅲ. 地区別計画

第1章 地区別計画の概要

第1節 地区別計画策定の趣旨	154
第2節 地区別計画の構成	154
第3節 地区の設定	155

Ⅲ. 地区別計画

第1章 地区別計画の概要

第1節 地区別計画策定の趣旨

本市は美しい海岸や漁業基地が連なる沿岸部から、豊かな緑や里山風景が広がる内陸部まで、多様で変化に富む地域によって構成されています。各地域はそれぞれ魅力的な個性を有する一方、解決すべきまちづくりの課題には違いがみられます。

そこで、本市の4つの地区（勝浦地区・興津地区・上野地区・総野地区）ごとに地域の特徴や課題を整理し、各地域の実情に即したまちづくりの方向性を地区別計画として策定します。

第2節 地区別計画の構成

4地区のそれぞれについて、下表の項目を記載しています。

■地区別計画を構成する内容

項目名	概 要
地区の人口推移	住民基本台帳に基づく各地区の人口推移と年齢 3 区分別の人口割合推移を示しています。
地区の強み・地域資源	立地する施設、土地利用の状況、産業・文化等の特徴など、各地区の特徴や地域資源を整理しています。
市民意識調査にみる地区の課題	本総合計画策定の基礎資料とすべく令和 3 年度に実施した市民意識調査において、まちづくり施策に対する重要度・満足度を尋ねた結果を指標化し、各地区ごとに市民がどの施策を重要視し、どの施策について不満に思っているかという点を整理しています。
地区のまちづくりの方向性	各地区の現況・強み・課題を踏まえ、それぞれの地区が特に注力していく必要のある取組の方向性について整理しています。

第3節 地区の設定

地区の区分については、歴史的な経緯や地域のまとまり状況を踏まえ、合併前の旧町村単位を基本とし、下図に示す「勝浦地区」、「興津地区」、「上野地区」、「総野地区」の4つの地区に区分し、各地区の計画を策定します。

■ 4地区の区分図

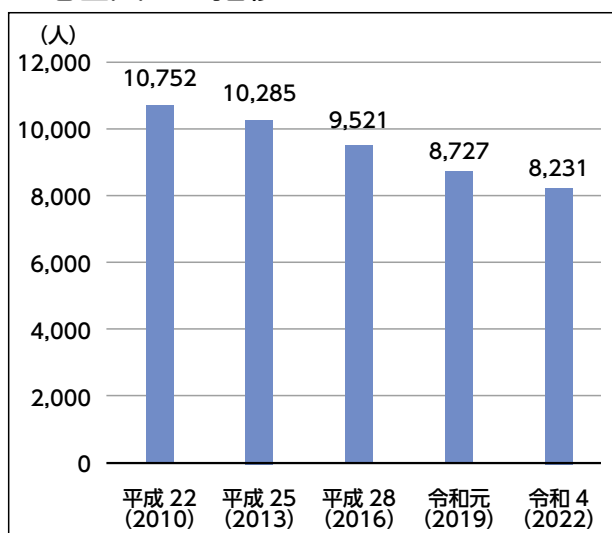


勝浦地区

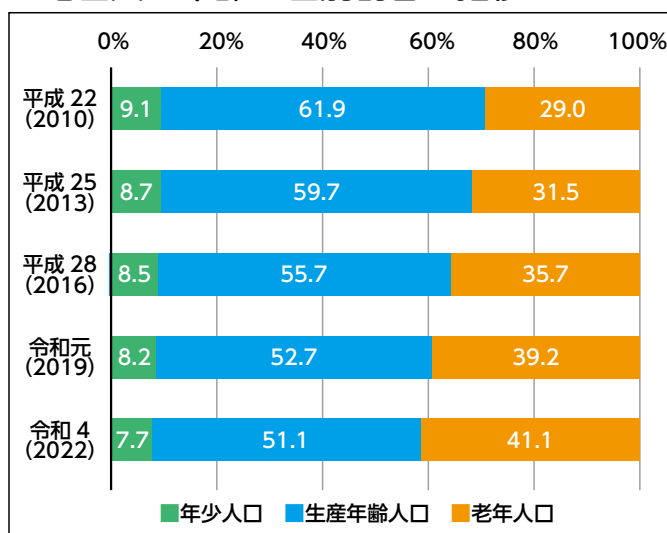
地区の人口推移

- ▶ 全地区のなかで最も人口が多く、市の総人口に占める割合は約 51%となっています。
- ▶ 近年は人口が減少傾向にあります。
- ▶ 老年人口割合は増加傾向ですが、市全体の割合（令和 4 年：45.6%）を下回っています。

地区人口の推移



地区人口年齢 3 区別割合の推移



地区の強み・地域資源

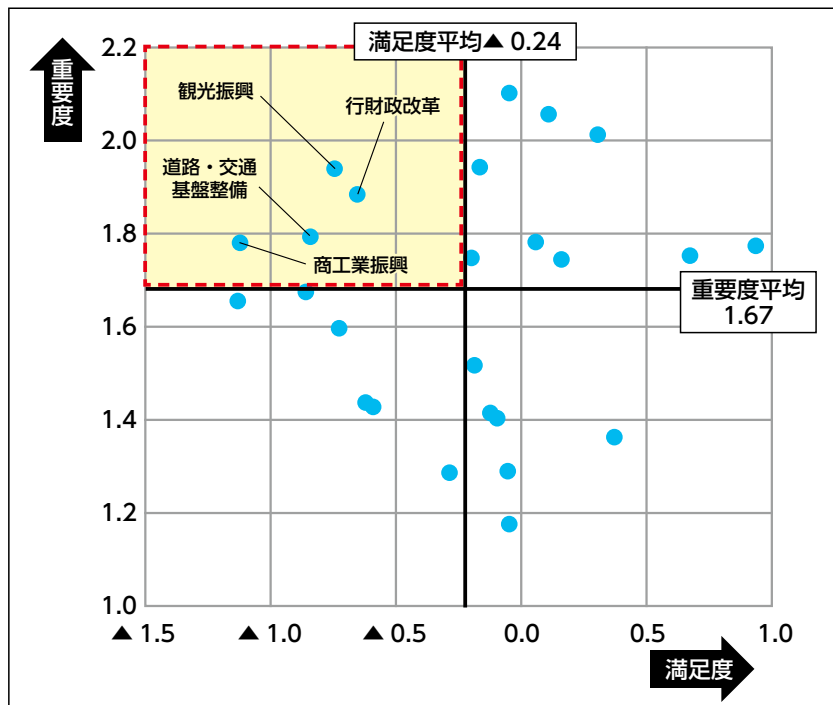
- ▶ 市の玄関口である JR 勝浦駅が立地し、国道 128 号・297 号が交差する交通の要衝です。
- ▶ 官公庁、教育・文化施設、商業施設が集積し、本市の中心市街地を形成しています。
- ▶ 400 余年の歴史を有する朝市、官軍塚・八幡岬・遠見岬神社等の歴史的資源や勝浦中央海水浴場など、豊富な観光スポットを有しています。
- ▶ 県内有数の水揚げ高を誇る勝浦漁港をはじめ多くの漁港が整備されています。



市民意識調査にみる地区の課題

- ▶ 重要度が平均を上回り、且つ満足度が平均を下回っている施策分野は、満足度が低い順に「商工業振興」、「道路・交通基盤整備」、「観光振興」、「行財政改革」となっています。

令和3年度市民意識調査における施策別満足度・重要度（勝浦地区居住者分集計）



地区のまちづくりの方向性

(1) 商業・水産業の活性化

- ▶ 空き店舗の活用、朝市と連携したイベント開催、決済・配送システムの効率化等の取組みを進め、商店街の活性化・組織強化を図ります。
- ▶ 勝浦市商工会や金融機関と連携し、事業継承、人材確保、円滑な資金調達等の各種経営支援を充実し、中小企業の経営基盤強化を図ります。
- ▶ 勝浦漁港等、水産関連施設の整備を進め、地元水産物の高付加価値化・販路拡大に取り組むことにより水産業の振興を図ります。

(2) 多様な地域資源を活かした観光振興

- ▶ 自然景観や歴史的資源などの豊富な観光資源を観光客のニーズを踏まえた魅力的な観光コンテンツとして造成し、観光客の滞在時間延長や観光消費の増加につながる取り組みを推進します。

(3) 安全・便利な交通ネットワークの整備

- ▶ 通勤、通学、買い物、観光と多くの人が集まる地域であることから、公共交通の充実や道路の整備を進め、市民や観光客が安全・便利に移動できる環境整備を推進します。

(4) 自然災害に強い安全なまちづくり

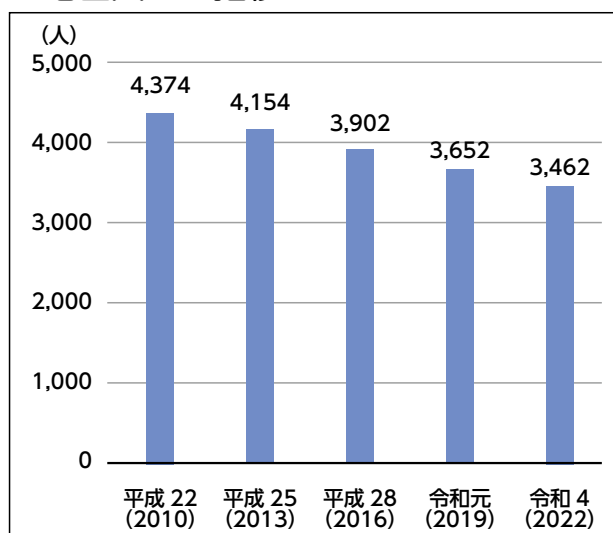
- ▶ 地区内には高潮・津波による浸水想定区域や、土砂災害のおそれがある急傾斜地が分布しており、避難場所となる防災拠点の確保などの災害対策を強化します。

興津地区

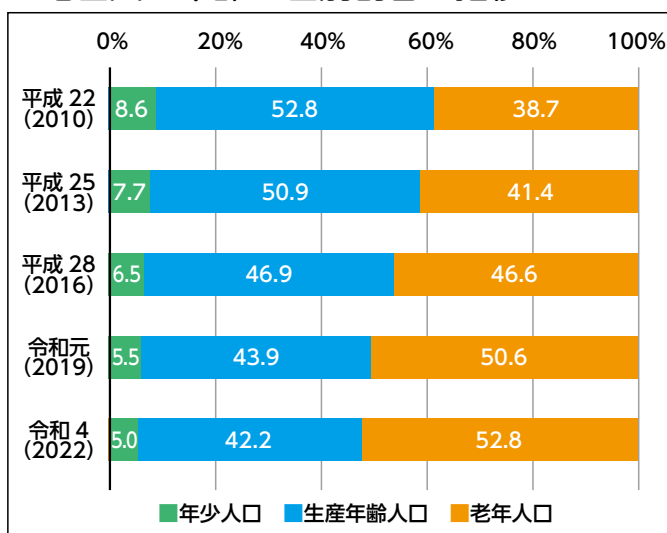
地区の人口推移

- ▶ 勝浦地区に次いで2番目に人口が多く、市の総人口に占める割合は約 21%となっています。
- ▶ 近年は人口が減少傾向にあります。
- ▶ 老年人口割合は増加傾向にあり、全地区のなかでも最も高い割合となっています。

地区人口の推移



地区人口年齢 3 区別割合の推移



地区の強み・地域資源

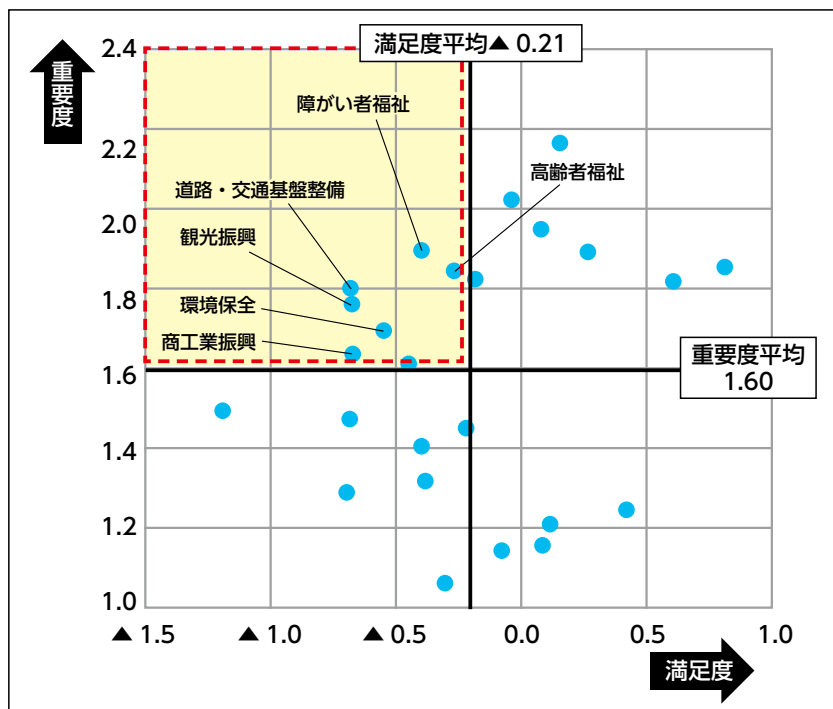
- ▶ リアス式海岸と入り江が連続する沿岸部は、鵜原理想郷や日本の渚百選に選ばれた鵜原海岸・守谷海岸など、美しい景観に恵まれています。
- ▶ 海水浴場のほか、海の博物館、勝浦海中公園、滞在型観光施設「eden」、ゴルフ場など、多様なレジャースポットが立地しています。
- ▶ 丘陵部には別荘地の開発エリアが広がり、多くの移住者が暮らしています。



市民意識調査にみる地区の課題

- ▶ 重要度が平均を上回り、且つ満足度が平均を下回っている施策分野は、満足度が低い順に「道路・交通基盤整備」、「商工業振興」、「観光振興」、「環境保全」、「障がい者福祉」、「高齢者福祉」となっています。

令和3年度市民意識調査における施策別満足度・重要度（興津地区居住者分集計）



地区のまちづくりの方向性

(1) 興津地区市街地の機能強化

- ▶ 興津市街地の商業サービス機能、保健福祉機能、文化機能等を充実し、周辺地域の高齢化に対応した利便性の高い魅力的な市街地環境の形成を進めます。
- ▶ 旧行川アイランド跡地について、土地所有者等の関係者と協議を進め、有効活用してもらえるよう働きかけます。

(2) 多様な地域資源を活かした観光振興

- ▶ 鵜原理想郷・守谷海岸などの優れた自然景観、勝浦海中公園、さらに新設された滞在型観光施設「eden」など、本地区の豊富且つ多様な観光資源を活用し、本地区の観光地としての魅力をさらに高める取り組みを進めます。
- ▶ 興津海岸にて、国際環境認証であるブルーフラッグを取得し、市内の美しい海岸を将来にわたって引き継いでいけるよう取り組みます。

(3) 市街地と周辺地域との交通ネットワーク充実

- ▶ 商業機能が無い丘陵部開発地をはじめとした周辺地域と興津市街地・勝浦市街地とを結ぶ公共交通の充実を図り、交通弱者の生活利便性確保を図ります。

(4) 自然災害に強い安全なまちづくり

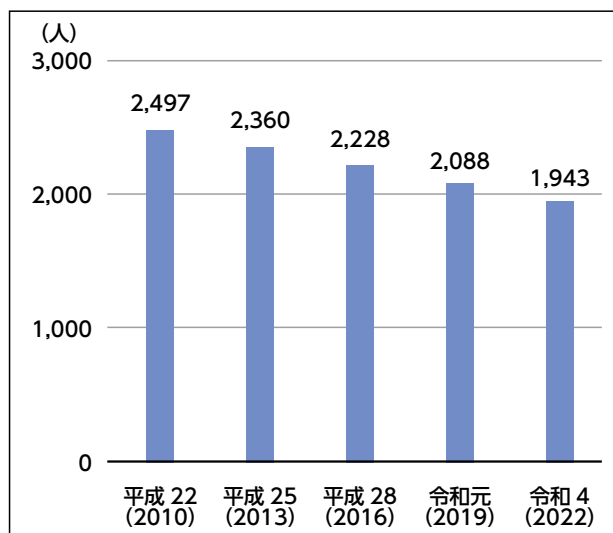
- ▶ 地区内には高潮・津波による浸水想定区域や、土砂災害のおそれがある急斜面地が分布しており、避難場所となる防災拠点の確保などの災害対策を強化します。

上野地区

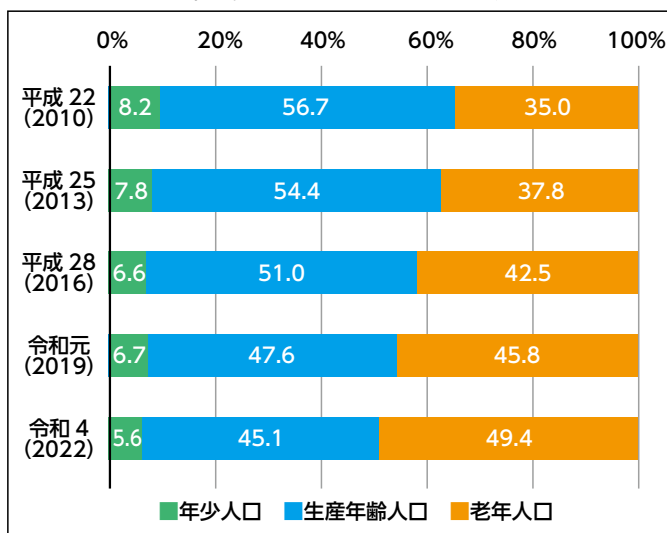
地区の人口推移

- ▶ 全地区の中で最も人口が少なく、市の総人口に占める割合は約 12%となっています。
- ▶ 近年は人口が減少傾向にあります。
- ▶ 老年人口割合は増加傾向にあり、市全体の割合（令和 4 年：45.6%）を上回っています。

■地区人口の推移

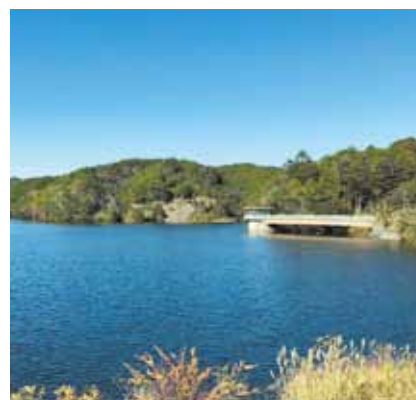


■地区人口年齢 3 区別割合の推移



地区の強み・地域資源

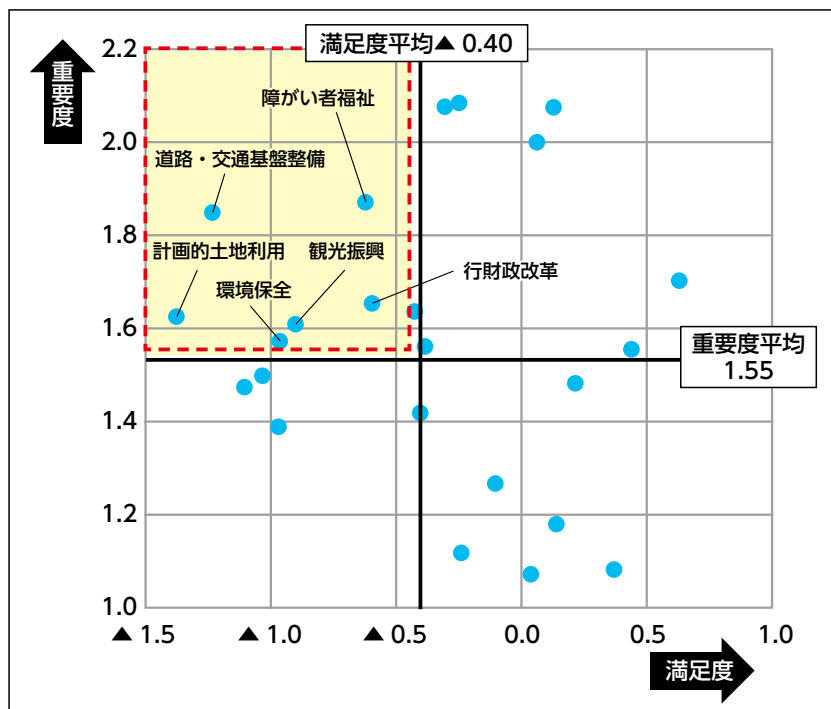
- ▶ 天保年間から続く老舗酒蔵「吉野酒造」や「上野村の大椎」で有名な寂光寺をはじめとした多数の寺社など、歴史的な地域資源が数多く点在しています。
- ▶ 山林、農地が広く分布し、豊かな緑と里山風景が広がっています。
- ▶ キャンプ場、荒川テニスコートなどのレジャー・スポーツ施設があります。



市民意識調査にみる地区の課題

- ▶ 重要度が平均を上回り、且つ満足度が平均を下回っている施策分野は、満足度が低い順に「計画的土地利用」、「道路・交通基盤整備」、「環境保全」、「観光振興」、「障がい者福祉」、「行財政改革」となっています。

■令和3年度市民意識調査における施策別満足度・重要度（上野地区居住者分集計）



地区のまちづくりの方向性

(1) 山林・農地の保全と観光レクリエーション資源としての活用

- ▶ 「森林保全ゾーン」に位置付けた山林の保全を図るとともに、「森林活用ゾーン」については、保全を基本としつつ、産業資源としての木材活用や、森林浴等のレクリエーションの場としての活用を図ります。
- ▶ 良好な景観形成や土砂災害防止機能など、農村が有する多面的機能の維持を図るべく農地の保全・生産基盤整備を進めるとともに、都市住民と地区住民との交流の場として農地を活用します。
- ▶ キャンプ場、荒川テニスコートなどのレジャー・スポーツ施設のほか、老舗酒蔵「吉野酒造」など地域資源の活用を推進します。

(2) 上野基幹集落の機能強化及び周辺地域との連携強化

- ▶ 上野基幹集落における商業機能、文化機能等の充実、及び公共交通ネットワークと幹線道路整備による周辺地域との連携強化により、地区住民の生活利便性向上を図ります。

(3) 自然災害に強い安全なまちづくり

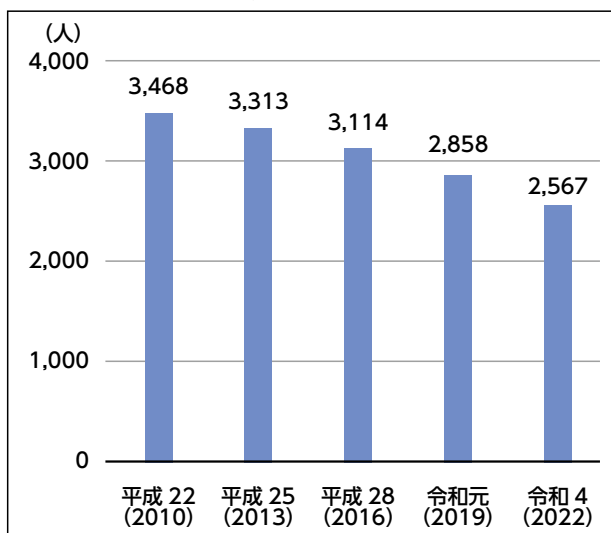
- ▶ 地区内には夷隅川沿いの洪水浸水想定区域や、勝浦ダムによる浸水想定区域があり、水害対策をはじめとした防災対策強化により地域の安全確保に努めます。

総野地区

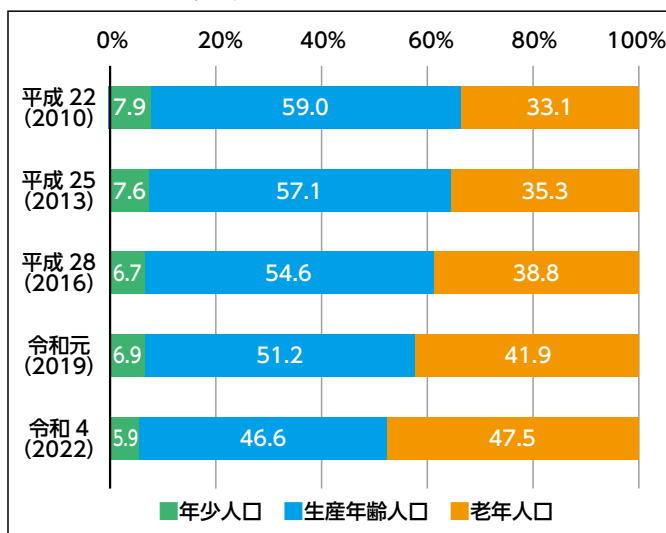
地区の人口推移

- ▶ 全地区の中で3番目に人口が多く、市全体の約16%を占めています。
- ▶ 近年は人口が減少傾向にあります。
- ▶ 老年人口割合は増加傾向にあり、市全体の割合（令和4年：45.6%）を上回っています。

■地区人口の推移



■地区人口年齢3区別割合の推移



地区の強み・地域資源

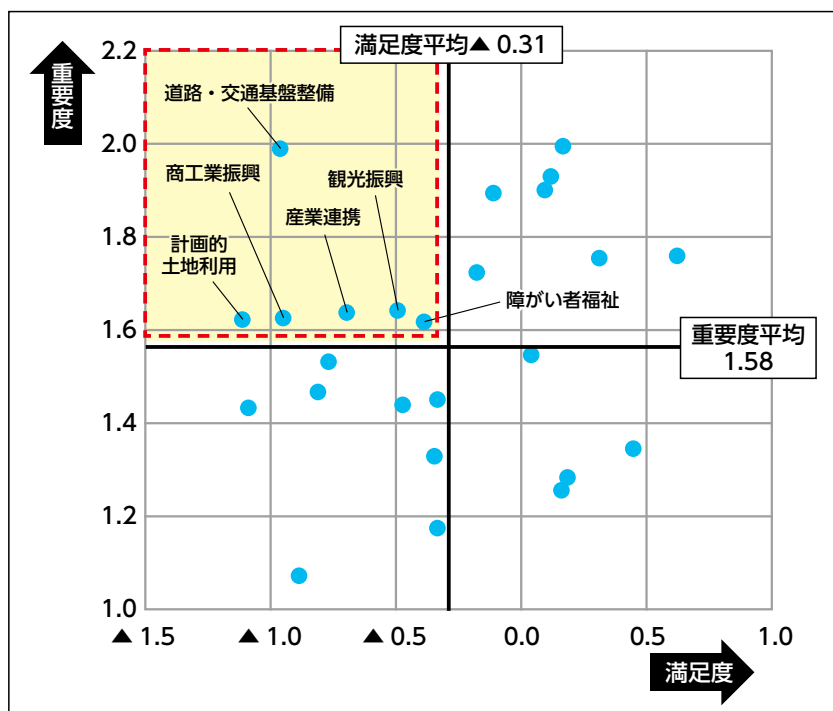
- ▶ 圏央道に接続する国道 297 号が地区の中心を貫き、都市部から来訪者の主要な玄関口としての地理的性格を有しています。
- ▶ 山林、農地が広く分布し、豊かな緑と里山風景が広がっています。
- ▶ キャンプ場、ゴルフ場、温泉施設などのレジャー・スポーツ施設があります。



市民意識調査にみる地区の課題

- ▶ 重要度が平均を上回り、且つ満足度が平均を下回っている施策分野は、満足度が低い順に「計画的土地利用」、「道路・交通基盤整備」、「商業振興」、「産業連携」、「観光振興」、「障がい者福祉」となっています。

令和3年度市民意識調査における施策別満足度・重要度（総野地区居住者分集計）



地区のまちづくりの方向性

(1) 市の魅力発信機能の強化

- ▶ 国道 297 号による市の北側玄関口に位置する立地条件を活用し、バイパスを含めた幹線道整備を進め、観光情報や地域の特産物の PR を通じた産業振興を図ります。

(2) 山林・農地の保全と観光レクリエーション資源としての活用

- ▶ 「森林保全ゾーン」に位置付けた山林の保全を図るとともに、「森林活用ゾーン」については、保全を基本としつつ、産業資源としての木材活用や、森林浴等のレクリエーションの場としての活用を図ります。
- ▶ 良好な景観形成や土砂災害防止機能など、農村が有する多面的機能の維持を図るべく農地の保全・生産基盤整備を進めるとともに、都市住民と地区住民との交流の場として農地を活用します。

(3) 総野基幹集落の機能強化及び周辺地域との連携強化

- ▶ 総野基幹集落における医療体制、商業機能、文化機能等の充実、及び幹線道路整備による周辺地域との連携強化により、地区住民の生活利便性向上を図ります。
- ▶ 幹線道路から離れた地域に住む住民の買い物や通院などの日常生活における移動ニーズを的確に把握し、利便性の高い公共交通ネットワークの実現を目指します。

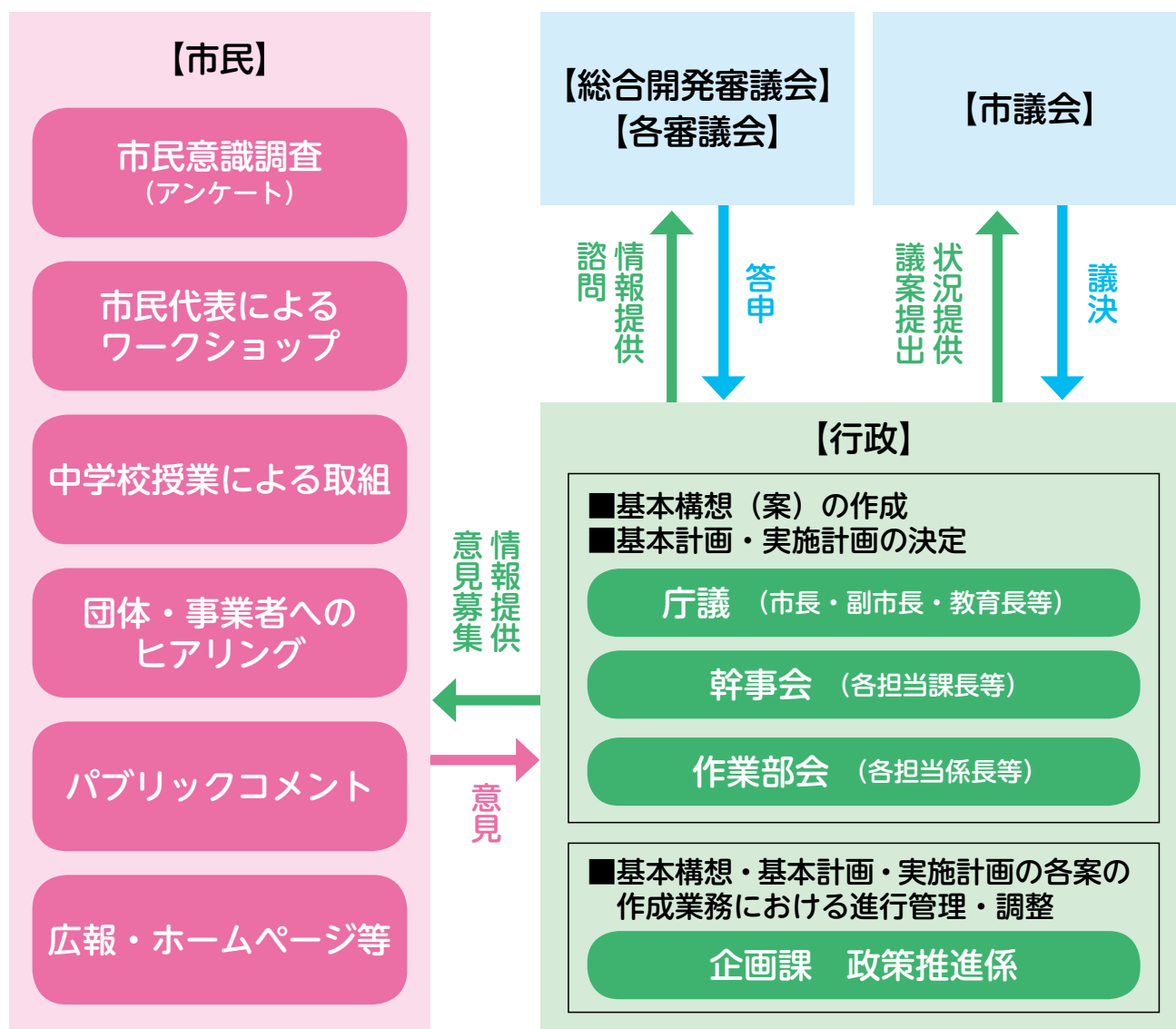
(4) 自然災害に強い安全なまちづくり

- ▶ 地区内には夷隅川沿いの洪水浸水想定区域があり、水害対策をはじめとした防災対策強化により地域の安全確保に努めます。



資料編

1. 総合計画策定体制



【総合開発審議会】

市議会議員と学識経験者で構成された総合開発審議会は、市長の諮問に応じ、総合計画の策定に必要な調査、審議を経て、答申を行いました。

【市議会】

市議会は基本構想を審議のうえ議決し、また、基本計画について適宜、意見しました。

【行政】

庁内では、庁議、幹事会、作業部会を設置し、それぞれを構成する職員による議論を通じて基本構想（案）の作成及び基本計画・実施計画の決定を行いました。

【市民】

市民意識調査、市民代表によるワークショップ、中学校授業による取組、市内団体・事業者へのヒアリング、パブリックコメント等を通じ、市民の意見を広く採り入れながら計画策定を進めました。

2. 総合計画策定経過

■令和3年度（2021年度）

月	市民参画	各審議会等	議会・行政等
4月			■幹事会（4/28）
5月			
6月	■市民まちづくりアンケート （6月～7月）		■勝浦市各課ヒアリング （6/7～6/24）
7月			
8月	■第1回市民まちづくりワークショップ 【産業・経済分野】 （8/31）		
9月	■第2回市民まちづくりワークショップ 【保健・医療・福祉分野】 （9/17）		
10月	■第3回市民まちづくりワークショップ 【生活環境・自然環境分野】 （10/4） ■第1回中学生ワークショップ 【勝浦市の魅力と課題】 （10/8） ■第2回中学生ワークショップ 【私の望む勝浦市の将来像】 （10/29） ■第4回市民まちづくりワークショップ 【教育・文化分野】 （10/27）		
11月	■第3回中学生ワークショップ 【市長になったら取り組みたいこと】 （11/11） ■第5回市民まちづくりワークショップ 【市民参加・協働分野、SDGs】 （11/17） ■市内団体ヒアリング（14団体） （11/22～11/30）		
12月	■第6回市民まちづくりワークショップ （12/3）		
1月			
2月			
3月			

■令和4年度（2022年度）

月	市民参画	各審議会等	議会・行政等
4月			■幹事会（4/28）
5月	■パブリックコメント 【基本構想】 （5/30～6/30）	■第1回総合開発審議会（5/10）	■第1回勝浦市庁議（5/6） ■市議会議員説明会（5/19）
6月			
7月		■第2回総合開発審議会（7/13）	
8月		■第3回総合開発審議会（8/8）	
9月			■第2回勝浦市庁議（9/7） ■市議会議員説明会（9/15）
10月			■市議会で基本構想を議決（10/4）
11月	■パブリックコメント 【前期基本計画・前期実施計画】 （11/28～12/28）	■各審議会等へ諮問 【前期基本計画・前期実施計画】 （11/24）	■第3回勝浦市庁議（11/4） ■市議会議員説明会（11/22）
12月		■勝浦市水道事業運営審議会（12/22） ■勝浦市環境審議会（12/22） ■勝浦市観光商工審議会（12/26） ■勝浦市都市計画審議会（12/27）	
1月		■勝浦市教育委員会（1/6） ■勝浦市青少年問題協議会（1/6） ■勝浦市水産業振興対策審議会（1/11） ■勝浦市観光商工審議会（1/16） ■勝浦市企業誘致推進審議会（1/24） ■勝浦市消防委員会（1/30）	
2月		■第4回総合開発審議会（2/16）	■第4回勝浦市庁議（2/8） ■前期基本計画・前期実施計画を策定（2/22）

3. 総合開発審議会

(1) 総合開発審議会委員名簿

(敬称略順不同)

構成区分	氏 名	備 考
学 識 経 験 者	石 井 春 人	
//	江 澤 修	
//	鈴 木 恒 夫	
//	中 村 昇	副会長
//	中 村 吉 政	
//	吉 野 茂 子	
市 議 会 議 員	磯 野 典 正	令和 4 年 (2022 年) 7 月 22 日まで
//	岩 瀬 義 信	
//	狩 野 光 一	令和 4 年 (2022 年) 10 月 4 日から
//	佐 藤 啓 史	令和 4 年 (2022 年) 10 月 4 日から
//	末 吉 定 夫	会長
//	鈴 木 克 己	令和 4 年 (2022 年) 7 月 20 日まで
//	丸 昭	

(2) 審議経過

(敬称略順不同)

開催数	開催日	主な審議内容
第 1 回	令和 4 年 (2022 年) 5 月 10 日	・ 勝浦市総合計画「基本構想」(素案)について ・ 策定スケジュールについて
	7 月 6 日	市長より勝浦市総合計画「基本構想」(案)について諮問
第 2 回	7 月 13 日	・ 勝浦市総合計画「基本構想」(案)について
第 3 回	8 月 8 日	・ 勝浦市総合計画「基本構想」(案)について
	8 月 8 日	勝浦市総合計画「基本構想」(案)について答申
	令和 5 年 (2023 年) 2 月 10 日	市長より勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)及び「前期実施計画」(案)について諮問
第 4 回	2 月 16 日	・ 勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)について ・ 勝浦市総合計画「前期実施計画」(案)について
	2 月 16 日	勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)及び「前期実施計画」(案)について答申

(3) 諮問書（基本構想）

勝企第91号
令和4年7月6日

勝浦市総合開発審議会
会長 末吉 定夫 様

勝浦市長 土屋 元

次期勝浦市総合計画「基本構想」（案）について（諮問）

次期勝浦市総合計画「基本構想」（案）について、貴審議会の意見を求めます。

(4) 答申書（基本構想）

令和4年8月8日

勝浦市長職務代理者
勝浦市副市長 竹下 正男 様

勝浦市総合開発審議会
会 長 末吉 定夫

次期勝浦市総合計画「基本構想」(案)について(答申)

令和4年7月6日付け、勝企第91号をもって諮問のありましたこのことについて、下記のとおり返申します。

記

- ・基本構想の策定における基本的な考え方として、人口減少社会を前提としたまちづくりを進める中においても、生産年齢人口を増やすことに重点を置いた施策を推進されたい。
- ・基本構想(案)36ページ基本方針④「人々が活気にあふれるまち」(産業・観光・交流)においては、基幹産業である農業及び漁業のほか、観光業及び商工業における具体的な施策を記述し、その推進を強調するとともに、産業の振興を図られたい。
- ・基本構想(案)37ページ基本方針⑤「快適な環境で過ごせるまち」(道路・交通・生活基盤・環境)においては、中学生ワークショップの結果を真摯に受け止め、特に生活利便の向上における具体的な施策を記述し、その推進を図られたい。
- ・基本構想(案)37ページ基本方針⑥「心豊かに元気になるまち」(生涯学習・文化・スポーツ)においては、新たな歴史資料の発掘、活用についても取り組まれたい。
- ・基本構想の策定にあたっては、新市長の考えに基づき策定手続きを進められたい。

(5) 諮問書（前期基本計画・前期実施計画）

勝企第233号
令和5年2月10日

勝浦市総合開発審議会
会長 末吉 定夫 様

勝浦市長 照川 由美子
(公印省略)

次期勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)及び「前期実施計画」(案)
について(諮問)

次期勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)及び「前期実施計画」(案)について、貴審
議会の意見を求めます。

(6) 答申書（前期基本計画・前期実施計画）

令和5年2月16日

勝浦市長 照川 由美子 様

勝浦市総合開発審議会
会 長 末吉 定夫

次期勝浦市総合計画「前期基本計画」(案)及び「前期実施計画」(案)
について(答申)

令和5年2月10日付け、勝企第233号をもって諮問のありましたこのことについて、
下記のとおり答申します。

記

■前期基本計画について

- ・ 施策4－6 働く場の確保 施策の展開①企業誘致の促進
各種分野の施策の推進において国際武道大学との連携を図ることともに、大学の立地
継続への取組についても盛り込まれたい。

■前期実施計画について

- ・ 事業番号42404 海面養殖推進事業
水産業の振興を図るうえで養殖事業の推進は重要であることから、本事業の実施におい
ては、養殖事業に関する調査研究等も対象にするとともに、事業主体の負担軽減を図ら
れたい。
- ・ 事業番号44103 朝市活性化事業
朝市の出店に対し地元理解が得られづらい状況となっているが、市として朝市を重要な
地域資源として再認識し、朝市活性化に取り組まれたい。
- ・ 事業番号55303 ごみ処理の効率化
ごみ処理施設の老朽化が進む中、新たな広域化の枠組みの検討について期限を設けられ
たい。

4. 用語解説

アルファベット

■A I

Artificial Intelligence（人工知能）の略。人間の思考プロセスと同じような形で動作するプログラム、あるいは人間が知的と感じる情報処理・技術。

■DMO（観光地域づくり法人）

Destination Management/Marketing Organization の略。地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、明確なコンセプトに基づいた観光地域づくりを実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人。

■DV

Domestic Violence（ドメスティックバイオレンス）の略。配偶者や恋人など親密な関係にある、又はあった者から振るわれる暴力。

■G I G A スクール構想

「GIGA」は Global and Innovation Gateway for All の略。1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化された学びを全国の学校現場で持続的に実現させる構想。

■I C T

Information & Communications Technology の略。情報通信技術。

■L G B T Q

「Lesbian（レズビアン）：女性同性愛者」、「Gay（ゲイ）：男性同性愛者」、「Bisexual（バイセクシュアル）：両性愛者」、「Transgender（トランスジェンダー）：身体の性と性自認が一致しない人」、「Questioning（クエスチョニング）／Queer（クィア）：性的指向や性自認が明確でない人、定義づけたくない人、わからずに悩んでいる人」の頭文字をとった略語で、性的少数者を表す総称の一つとして使われている。

■P D C A サイクル

「Plan：計画」、「Do：実行」、「Check：評価」、

「Action：改善」の頭文字をとったもので、これらの一連のプロセスを繰り返し行うことで、業務の改善や効率化を図る手法。

■Q U 調査

「QU」は Questionnaire－Utilities の略。子どもたちの学校生活における満足度と意欲、学級集団の状態についての調査。

■S N S

Social Networking Service（ソーシャルネットワーキングサービス）の略。登録された利用者同士が交流できる Web サイトの会員制サービスのことで、友人同士や、同じ趣味を持つ人同士が集まったり、近隣地域の住民が集まったりと、ある程度閉ざされた世界にすることで、密接な利用者間のコミュニケーションを可能としており、最近では、会社や組織の広報としての利用も増えている。

■W i - F i

無線 LAN の普及促進を行う業界団体である Wi-Fi Alliance から認証を受けた機器。現在は認証を受けた機器が増えたことから、無線 LAN 全般を指して使われることが多い。

あ行

■空き家バンク

各地方自治体等が空き家の情報を Web サイトを活用する等により利活用希望者に紹介している取組。

■一般財源

使途が特定されず、どのような経費にも使用することができる財源。地方税、地方譲与税、地方特別交付金及び地方交付税の合計額。これらのほか、市町村においては、都道府県から交付を受ける利子割交付金、配当割交付金、株式等譲渡所得割交付金、分離課税所得割交付金（政令指定都市のみ）、地方消費税交付金、ゴルフ場利用税交付金、特別地方消費税交付金、自動車取得税交付金、自動車税環境性能割交付金、軽油引取税交付金（政令指定都市のみ）及び法人事業税交付金を加算した額。

■イノベーション

技術の革新にとどまらず、これまでとは全く違っ

た新たな考え方、仕組みを取り入れて、新たな価値を生み出し、社会的に大きな変化を起こすこと。

■インクルーシブ教育

人間の多様性の尊重等の強化、障がい者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障がいのある者と障がいのない者が共に学ぶ仕組み。

■衛生管理型市場

水産物の陸揚げから出荷までの各工程で想定される衛生面における危害要因を取り除くために必要な対策を行い、安全・安心な水産物の安定供給を行う施設のこと。

■温室効果ガス

熱（赤外線）を吸収する性質を持つガス。大気中の温室効果ガスが増えると、より地表付近の気温が上がり、地球温暖化につながる。人間の活動によって増加した主な温室効果ガスには、二酸化炭素（CO₂）やメタン（CH₄）、一酸化二窒素（N₂O）、フロンガスがある。

か行

■外来漁船

当該漁港地区に所属する登録漁船以外で当該漁港を利用した漁船。

■かつうら朝空マーケット

市内関連団体の企画・運営により、中央商店街内の空き店舗や更地空間等を活用して開催されるイベントで、毎月第2日曜日に「勝浦朝市」、「かつうらマルシェ」と同時に開催される。

■かつうら創業塾

創業予定者や創業に興味がある方を対象に創業のノウハウを短期間で集中的に学べるカリキュラムを提供する、勝浦市商工会が主催する講座。

■かつうらマルシェ

歴史ある勝浦朝市の会場において、お試しのようない気軽さで1日限定で出店できる制度。平成31年（2019年）1月に始まった取組で、当初は毎月1回、第2日曜日に開催されていたが、令和3年（2021年）11月より毎月2回開催されている（第2、第4日曜日）。

■カーボンニュートラル

温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡させることで、二酸化炭素をはじめとする温室効果ガスの「排出量」から、植林、森林管理などによる「吸収量」を差し引いて、合計を実質的にゼロにすることを意味している。令和2年（2020年）10月、政府は2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、カーボンニュートラルを目指すことを宣言している。

■関係人口

移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、特定の地域に継続的に多様な形で関わる人のこと。

■キャッシュレス

クレジットカード、電子マネー、デビットカード、スマートフォンやインターネットを使った支払いなど、お札や小銭などの現金を使用せずにお金を払うこと。

■キャリア教育

一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通して、キャリア発達を促す教育。

■教育特区

学校教育法により、学校の設置主体は国、地方公共団体及び学校法人に限定されているが、特区においては、地方公共団体が認める場合に、株式会社やNPO法人に学校設置が認められる。

■共生社会

障がいの有無に関わらず、すべての人がお互いの人権（私たちが幸福に暮らしていくための権利）や尊厳（その人の人格を尊いものと認めて敬うこと）を大切にし、支え合い、誰もが生き生きとした人生を送ることができる社会。

■グローバル化

資本や労働力の国境を越えた移動が活発化するとともに、貿易を通じた商品・サービスの取引や、海外への投資が増大することによって世界における経済的な結びつきが深まること。

■経常収支比率

地方公共団体の財政構造の弾力性を判断するための指標で、人件費、扶助費、公債費のように毎年度経常的に支出される経常的経費に充当された一

般財源等の額が、地方税、普通交付税を中心とする毎年度経常的に収入される一般財源等、減収補填債特例分及び臨時財政対策債の合計額に占める割合。この指標は経常的経費に経常一般財源等収入がどの程度充当されているかを見るものであり、比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいることを表す。

■健康寿命

健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

■合計特殊出生率

出産可能年齢（15～49歳）の女性に限定し、各年齢ごとの出生率を足し合わせ、一人の女性が生涯、何人の子どもを産むのかを推計したもの。

■公債費

地方公共団体が発行した地方債の元利償還等に要する経費。

■交流人口

通勤・通学、買い物、文化鑑賞・創造、学習、習い事、スポーツ、観光、レジャー、など様々な目的でその地域を訪れる人。

■子育て世代包括支援センター

母子保健施策と子育て支援施策との一体的な提供を通じて、妊産婦及び乳幼児の健康の保持及び増進に関する包括的な支援を行い、地域の特性に応じた妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を提供する体制の構築を目的とし、母子保健法に基づき市町村が設置するもの。

さ行

■再生可能エネルギー

「太陽光、風力その他非化石エネルギー源のうち、エネルギー源として永続的に利用することができると認められるものとして政令で定めるもの」と定義され、政令において、太陽光・風力・水力・地熱・太陽熱・大気中の熱その他の自然界に存する熱・バイオマスが定められている。

■財政力指数

基準財政収入額を基準財政需要額で除して得た数値の過去3年間の平均値。財政力指数が高いほど、普通交付税算定上の留保財源が大きいことになり、財源に余裕があるといえる。

■サテライトオフィス

企業または団体の本拠から離れた所に設置されたオフィス。

■ジェンダー

社会的・文化的に形成された性別のこと。人間には生まれつきの生物学的性別がある一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的・文化的に形成された性別」という。

■自主防災組織

「自分たちの地域は自分たちで守る」という自覚、連帯感に基づき、自主的に結成する組織であり、災害による被害を予防し、軽減するための活動を行う組織。

■自助・共助・公助

「自助」とは、災害が発生したときに、まず自分自身の身の安全を守ること、この中には家族も含まれる。「共助」とは、地域やコミュニティといった周囲の人たちが協力して助け合うことをいい、市町村や消防、県や警察、自衛隊といった公的機関による救助・援助が「公助」。

■実質公債費比率

一般会計等が負担する元利償還金および準元利償還金の標準財政規模から元利償還金などに係る基準財政需要額算入額を控除した額に対する比率。借入金（地方債）の返済額およびこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示す指標ともいえる。

■指定管理者制度

多様化する住民ニーズに効果的・効率的に対応するため、民間ノウハウを活用し、住民サービスの向上と経費の削減等を図ることを目的として、民間事業者等も公の施設の管理を行うことができることとした制度。

■循環型社会

[1] 廃棄物等の発生抑制、[2] 循環資源の循環的な利用及び [3] 適正な処分が確保されることによって、天然資源の消費を抑制し、環境への負荷ができる限り低減される社会。

■将来負担比率

地方公社や損失補償を行っている出資法人等に係

るものも含め、一般会計等が将来負担すべき実質的な負債の標準財政規模から元利償還金などに係る基準財政需要額算入額を控除した額に対する比率。一般会計等の借入金（地方債）や将来支払っていく可能性のある負担などの現時点での残高を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示す指標ともいえる。

■食育

様々な経験を通じて、「食」に関する知識と、バランスの良い「食」を選択する力を身に付け、健全な食生活を実践できる力を育むこと。

■食品ロス

食べ残し、売れ残りや期限が近いなど様々な理由で、食べられるのに捨てられてしまう食品。

■新オレンジプラン

団塊の世代が75歳以上となる令和7年（2025年）を見据え、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、厚生労働省と関係府省庁との共同により策定された「認知症施策推進総合戦略」。平成27年（2015年）策定、平成29年（2017年）改訂。

■森林環境譲与税

令和6年度（2024年度）から国内に住所のある個人に対して課税される国税であり、市町村において、個人住民税均等割と併せて1人年額1,000円が徴収され、その全額が国によって森林環境譲与税として都道府県・市町村へ譲与される。森林環境譲与税は、市町村においては、「森林整備及びその促進に関する費用」に、また、都道府県においては「森林整備を実施する市町村の支援等に関する費用」に充てられ、都道府県・市町村は、インターネットなどを利用してその使い道を公表することが求められる。

■スポーツツーリズム

スポーツを「観る（観戦）」「する（楽しむ）」ための移動だけではなく、周辺の観光要素や、スポーツを「支える」人々との交流や地域連携も付加した旅行スタイル。

■成年後見制度

認知症や知的障がい、精神障がいなどのために、判断能力が十分でない方を守るために、後見人等が契約や財産管理を支援する制度。

■生物多様性

生きものたちの豊かな個性とつながりのこと。生物多様性条約では、生態系の多様性・種の多様性・遺伝子の多様性という3つのレベルで多様性があるとしている。

■全国勝浦ネットワーク

全国で「勝浦」の地名を持つ自治体が「青少年交流、文化交流、産業交流など」の交流を図ることを目的として、平成15年（2003年）に友好都市協定を締結。本市のほか徳島県勝浦町、和歌山県那智勝浦町が参加している。

■早期健全化基準

地方公共団体が、財政収支が不均衡な状況その他の財政状況が悪化した状況において、自主的かつ計画的にその財政の健全化を図るべき基準として、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率のそれぞれについて定められた数値。

た行

■ダイバーシティ

「多様性」のこと。性別や国籍、年齢などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことをダイバーシティ社会という。

■ダブルケア

育児期にある人（世帯）が親の介護も同時に引き受けること。

■多文化共生

国籍等の異なる人々が、互いの文化的差異を認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

■地域包括ケアシステム

重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、住まい・医療・介護・予防・生活支援が一体的に提供される体制。

■地域包括支援センター

地域住民の心身の健康の維持、生活の安定、保健・福祉・医療の向上と増進のため必要な援助、支援を包括的に担う地域の中核機関。

■地産地消（千産千消、地産千消）

地域で生産された農林水産物を、その生産された地域内において消費する取組。千葉県では「地産地消」の「地」を千葉県の「千」に変えて「千産千消」と標記し、同取組を推進している。

■地籍調査

主に市町村が主体となって、一筆ごとの土地の所有者、地番、地目を調査し、境界の位置と面積を測量する調査。

■長寿命化

老朽化した施設を、将来にわたって長く使い続けるため、物理的な不具合を直すのみではなく、機能や性能をインフラ施設として求められている水準まで引き上げること。

■デマンドタクシー

自宅や指定の場所から目的地まで、時間帯や乗降場所などの要望に応えられる予約制乗合タクシー。

■テレワーク

Tele（離れて）と Work（仕事）を組み合わせた造語で、ICT（情報通信技術）を利用し、時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方のこと。

■特殊詐欺

被害者に電話をかけるなどして対面することなく信頼させ、指定した預貯金口座への振込、その他の方法により、不特定多数の者から現金等をだまし取る犯罪。

■特定空き家

そのまま放置すれば倒壊等著しく保安上危険となるおそれのある状態又は著しく衛生上有害となるおそれのある状態、適切な管理が行われていないことにより著しく景観を損なっている状態、その他周辺の生活環境の保全を図るために放置することが不適切である状態にあると認められる空家等のこと。

■特定健康診査

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に着目してこれらの病気のリスクの有無を検査し、リスクがある方の生活習慣をより望ましいものに変えていくための保健指導を受けていただくことを目的とした、40歳から74歳までの方を対象とした健康診査。

な行

■二地域居住

主な生活拠点とは別の特定の地域に生活拠点（ホテル等も含む）を設ける暮らし方。

■日本の渚百選

“海の日”が国民の祝日として制定されたことを記念して、日本の渚百選中央委員会が農林水産省、運輸省（当時）、建設省（当時）、環境庁（当時）などの後援を受けて1996年に選定。

■認知症サポーター

認知症に対する正しい知識と理解を持ち、地域で認知症の人やその家族に対してできる範囲で手助けする人。

■認定こども園

教育・保育を一体的に行う施設で、幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設。就学前の子どもに幼児教育・保育を提供する機能、地域における子育て支援を行う機能を備え、認定基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができる。

■認定農業者

農業経営基盤強化促進法に基づき、市町村が地域の実情に即して効率的・安定的な農業経営の目標等を内容とする基本構想を策定し、この目標を目指して作成した農業経営改善計画が市町村等により認定された農業者。認定農業者に対しては低利融資制度、農地流動化対策、担い手を支援するための基盤整備事業等の各種支援が提供される。

■ノーマライゼーション

障がい者も健常者も区別されることなく共に生活することができる社会を目指すこと。

は行

■8050（ハチマルゴーマル）問題

80代前後の高齢の親が50代前後のひきこもりの子どもの生活を支える問題。

■ハザードマップ

自然災害による被害の軽減や防災対策に使用する目的で、被災想定区域や避難場所・避難経路などの防災関係施設の位置などを表示した地図。

■パブリックコメント

重要な計画や条例を策定する際に、その案を公表し、それに対する市民の皆様のご意見を考慮して意思決定を行うとともに、その意見などに対する考え方などを公表すること。

■病後児保育

病気や怪我の回復期のため、通常の保育が難しい子どもを一時的に預かる保育。

■4 R（フォーアール）

限りある資源を有効利用し、循環型社会を目指す4つの取組、「Refuse（リフューズ）：不要なものを断る」、「Reduce（リデュース）：ごみを減らす」、「Reuse（リユース）：繰り返し使う」、「Recycle（リサイクル）：資源として再利用する」の頭文字の4つのRを表す。

■扶助費

社会保障制度の一環として、生活困窮者、児童、障がい者等を援助するために要する経費。

■フレイル

年齢を重ねることで、心や体の動きや社会とのつながりが弱くなってしまった状態。

■ヘルスツーリズム

自然豊かな地域を訪れ、そこにある自然、温泉や身体に優しい料理を味わい、心身ともに癒され、健康を回復・増進・保持する新しい観光形態であり、医療に近いものからレジャーに近いものまで様々なものが含まれる。

ま行

■民生委員・児童委員

民生委員は、厚生労働大臣から委嘱され、それぞれの地域において、常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な援助を行い、社会福祉の増進に努める方々であり、児童委員を兼ねている。児童委員は、地域の子どもたちが元気に安心して暮らせるように、子どもたちを見守り、子育ての不安や妊娠中の心配ごとなどの相談・支援等を行う。

や行

■ヤングケアラー

本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。

■有収率

全給水量のうち料金収入を伴った水量の割合。

■要支援者・要介護者

介護保険制度では、寝たきりや認知症等で常時介護を必要とする状態（要介護状態）になった場合や、家事や身支度等の日常生活に支援が必要であり、特に介護予防サービスが効果的な状態（要支援状態）になった場合に、介護サービスを受けることができる。この要介護状態や要支援状態にあるかどうか、その中でどの程度かの判定を行うのが要介護認定・要支援認定であり、保険者である市町村に設置される介護認定審査会において判定される。

■要配慮者

高齢者、障がい者、乳幼児等の防災施策において特に配慮を要する方。

ら行

■レセプト

医療機関が保険者（健康保険組合など）に提出する診療報酬明細書で、医療機関が投与した薬の種類や検査内容など、診療内容の詳細が単価（点数）とともに記入されているもの。

■老々介護

要介護者と介護者のいずれも 65 歳以上の高齢者である状態。

わ行

■ワーク・ライフ・バランス

一人ひとりがやりがいや充実感を感じながら働き、仕事上の責任を果たすとともに、家庭や地域生活などにおいても、子育て期、中高年期といった人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できる状態。



勝浦市総合計画

令和5年度(2023年度)～令和16年度(2034年度)

～ “豊かな自然” に抱かれて
“心豊か” に過ごせるまち かつうら ～

発 行 日 令和5年4月

発 行 者 勝浦市

〒299-5292

千葉県勝浦市新官1343-1

☎0470-73-1211 (代表)

企画・編集 勝浦市企画課

UD FONT 見やすく読みまちがえにくい
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。
